

## 149 No. 11:ベトナムで本県をPR—蔵元らは現地で商談 (令和2年1月28日)

ベトナム労働・傷病兵・社会問題省によると、2019年の海外出稼ぎ労働者数は14万7387人で、前年比3.2%増加した。日本向けが8万2人と最多である。

一方、日本では昨年4月、新たな在留資格である「特定技能」を創設した。ベトナム人をはじめ外国人労働者の受け入れはますます拡大するだろう。

こうした中、本県は昨年12月18日、ダナンにおいて合同企業説明会「TOCHIGI JOB



【合同企業説明会の様子】

FAIR IN DANANG」を開いた。キャム(壬生町)をはじめ県内企業10社が参加し、ダナン大学の学生などおよそ200名に対し積極的に自社のPRを行うとともに、採用に向けた面談もした。

前日、ハノイでベトナム駐在の梅田邦夫大使やチュオン・ホア・ビン筆頭副首相と会談した福田富一知事ならびに早川尚秀県議会議長、佐藤良、関谷暢之の両県議ら訪問団も駆けつけ、説明会の様子を視察。夜には、ハノイに引き続きダナンにおいても「とちぎ観光・グルメセミナー」を開き、とちぎの観光や食の魅力を発信した。

訪問団はバンコクに移動し、20日は在タイ日本国大使館、ジェトロバンコク事務所等を訪問。梨田和也大使や竹谷厚所長と会談するなど、精力的な活動を行った。

なお、訪問団の一員として地酒のPRを行っていた蔵元たちはこの日、バンコク市内の小売店を訪問した後、足利銀行バンコク駐在員事務所の協力を得てサイアム商業銀行主催のビジネスマッチングに参加し、現地のバイヤーと熱心な商談を重ねた。

翌21日はバンコク郊外の商業施設で「とちぎフード&ツーリズムフェア2019」を開催した。福田知事自ら本県の観光や食の魅力を伝えるプレゼンテーションをしたほか、来場者にスカイベリーなどを提供した。来場者は「今まで食べた苺の中で一番おいしい」と笑顔を見せていた。

縦割りになりがちな観光、農産物、日本酒のプロモーションを連携して実施したことで大きな相乗効果が期待される。今後も効果的なプロモーションに努めていきたい。

ところで、ベトナムの男性には「ツブロック」といわれる髪形の人が多い。現地の美容室で聞くと、「この3年ほど、特に30歳以下の若者に大人気」とのこと。日本では1980年代半ばから90年代に流行った髪型だと思う。ベトナム人労働者の増加に伴い、日本でももう一度「ツブロック」のブームが来るかもしれない。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構(ジェトロ)に出向。2017年4月から現職。栃木市出身。